

実習に関する学生へのアンケート調査

—よりよい実習指導にむけて—

仲野悦子・山崎 桂・吉用愛子・林 秀雄

Some Information through Questionnaire of Students rigarding Practical Training

—for Bettr Practical Training—

Etsuko Nakano · Katsura Yamasaki · Aiko Yoshimochi · Hideo Hayashi

Summary

In this paper we surveyed the concerns of students for practical training in kindergartens, day nurseries and institutions for dependent, neglected, and abused handicapped children.

The results showed that most of the students were conscious of being able to attain their goal in practical training and especially some students could experience social welfare institutions through this practical training.

Receved Apr. 30, 1997

key words: practical training, concerns of student, cooperation

I はじめに

今日「保育のあり方」が改めて問い直されている。幼稚園教育要領・保育所保育指針の改訂が行われ、これからの保育の方向性を一定程度示されてきた。そのことは、保育者養成校におけるこれからの保育者養成のあり方の見直しを否応なく迫るものであった。養成校におけるカリキュラムの一層の充実・見直しがこの間行われ、今も続けられている。

このような中で、保育者養成における実習の重要性は今まで以上のものがあることは保育者養成に携わる者すべての共通認識といえる。実習は実際に現実の保育の場において正しい認識を得ること。と同時に、保育現場での実践によってこれまでの学習をより確実にする。あるいはこれからの学習の方向性を明かにしていくという意味をもっていると言える。そのうえで、たとえば保育所にみられる多様なニーズに対応できる体制づくり、より豊かな専門

性を持った保母の養成、あるいは地域の子育て支援センター事業の取り組みといったようにその役割の多様化と、より一層の質的向上が保育の場に求められており、そのことは同時に保育者養成にそのまま求められているといえる。実習がこれらの集約されたものとして今まで以上に重要となってきているといえる。

II 本学幼児教育学科の実習の概要

本学幼児教育学科では、幼稚園教諭免許および保母資格取得に必要な学外実習として、「表1」に示すような実習を行えるようになっている。

幼稚園教諭免許取得に必要な学外実習として、「教育実習(幼稚園実習)1」、「教育実習(幼稚園実習)2」をそれぞれ2週間づつ行うことになっている。保母資格を得るための学外実習としては、「保育実習(保育所実習2週間、施設実習10日間)」、「保育実習2(保育所2週間)」および「保育実習3(施設実習10日間)」が設けられており、「保育実習2」と「保育実習3」は選択科目となっている。

殆どの学生は、「教育実習1・2」および「保育実習」を履修し、「保育実習2・3」は少数の学生が履修するにとどまっているのが現状である。実習の時期については、1部学生と3部学生とは異なった日程であるが、どちらも「教育実習1・2」を経験した後「保育実習」に取り組むことになっている。

そして実習をより充実したものとするために、学内での事前事後指導を行っている。また、学生に対する指導、特に個別の指導を行うために実習指導室を設け、学生の相談に応じる体制および実習先との連絡調整などを行っている。

表1 本学幼児教育学科学外実習一覧

実習の種類		実習期間	免許・資格(必、選)
教育実習	教育実習I	2週間	幼稚園教諭免許 (必修)
	教育実習II	2週間	幼稚園教諭免許 (必修)
保育実習	保育所実習	2週間	保母資格 (必修)
	施設実習	10日間 (宿泊)	保母資格 (必修)
保育実習II (保育所)		2週間	保母資格 (選択)
保育実習III (施設)		10日間 (宿泊)	保母資格 (選択)

III 本研究の目的

保育者養成における実習の比重はますます高まっている。実習がより実のり豊かなものとするためには、実習園と実習生を送り出す養成校そして実習生自身の実習に対する共通理解およびそれに裏打ちされた実習園と養成校の協力・理解・努力が欠かせない。しかし社会の変動に伴う生活や意識の変化並びに多様化は、3者間における共通理解を必ずしも容易にさせてくれない。そのことが実習における問題点として、さまざまな形で浮かび上がって

実習に関する学生へのアンケート調査

いる。

実習をより充実したものとするためには、実習に対する共通の理解が必要である。互いどのような差異があり、それはどのような要因によるのかをあきらかにしていく作業が実習指導にとって不可欠といえる。

そこで今回は実習後にアンケート調査を行い、学生の実習に対する態度、学生自身の自己評価、実習指導に対する要求などについて明かにし、これからの実習指導のあり方を検討するための基礎資料を得ることを目的とした。

IV 調査の方法

1) 調査時期および調査対象

1996年4月から10月のそれぞれの実習後に行った。対象学生は、本学幼児教育 学科学生 201名（1部学生120名、3部学生81名）である。なお各調査時期によって有効回答数は以下のようにになっている。

「幼稚園実習1」	1部学生114名 3部学生 65名	「施設実習」	1部学生111名 3部学生 68名
「幼稚園実習2」	1部学生 97名 3部学生 50名	「保育所実習」	1部学生117名 3部学生 71名

2) アンケートの内容

それぞれの実習においてアンケートによる調査を行った。アンケート項目は実習の内容によって異なっており、「幼稚園実習1回目」、「幼稚園実習2回目」、「施設実習」、「保育所実習」ごとにアンケート用紙を作成した。これらについては、資料1、資料2、資料3、資料4を参照されたい。

4種類のアンケートに共通する項目としては、学生自身の実習に対する自己評価項目がある。「実習を受けた感想」、「実習目標の達成度」、「子どもとの関わり」、「事前の予想との相違」などである。実習に対する態度に関する項目としては、「事前の教材などの準備」、「実習中の指導案の作成」、「提出物の期限に関するもの」、「実習中に戸惑った点」などである。さらに実習園の指導のあり方についての項目および実習を経験した後での将来の進路希望などの項目があげられている。

V 結果・考察

1 幼稚園実習

初めての実習がこの幼稚園実習である。最初は主に観察実習といえども学生たちが実際現場で保育を経験することで、保育者の在り方や子どもの実態を理解する第一歩であることにまちがいない。学生自身の幼い時の経験や回りの幼稚園の様子を見た理解の仕方とは異なる

り、体験の中で得た理解である。この実習は、同じ幼稚園で2週間ずつ2回設定され、計4週間の実習となっている。この実習に備えて次のような事前実習指導を行っている。

- 1) 学内の指導として、ビデオ教材を利用して幼稚園を理解する。
- 2) 保育現場の講師を招いて園児の生活、実習の心構えや注意点などの話を聞く。
- 3) 2～3人グループごとに面接指導をし、話し方や態度など基本的なことを学ぶ。
- 4) 実習経験した2年生に実習体験やアドバイスを語ってもらう。
- 5) 積極的に実習に参加するためにまず実習の目的をよく考えさせ、簡単な教材作り、指導案や実習日誌の書き方、紙芝居や絵本の読み方などを指導している。

実際、実習を経験したことていろいろな事を学んだようである。アンケート調査による自己評価から見て行くことにする。

問2(問3)「実習を受けた感想はいかがですか」

(1回目)	1部	3部
苦痛であった	17.9%	29.2%
ふつう	37.5%	38.5%
充実して楽しい	44.6%	32.3%

問3

(2回目)	1部	3部
苦痛であった	11.2%	19.2%
ふつう	41.8%	36.5%
充実して楽しい	47.0%	44.3%

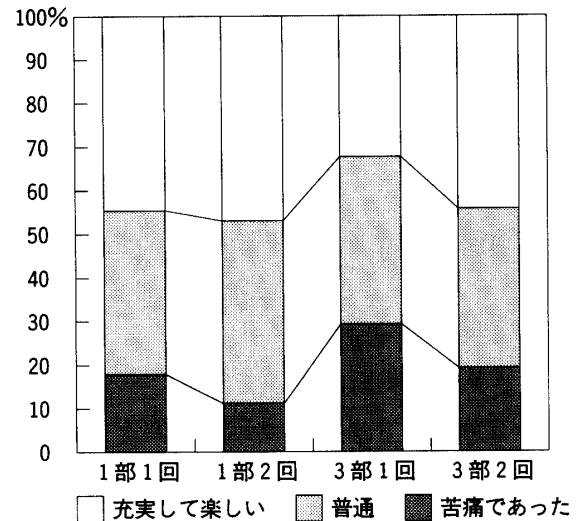


図1 実習の感想

2週間の実習の結果、「充実して楽しかった」学生が1部の学生では約半数近く、3部の学生では4割近くいる。反対に「苦痛であった」という学生は1部では1割、3部では2～3割近くいた。1回目より2回目のほうが経験からくる自信からか、より積極的に実習に参加し自分なりに良い評価をしている。しかし3部の2割弱の学生は自分の力が出し切れずに終わったことが気になる。

実習に関する学生へのアンケート調査

問3 (問4) 「自分の実習目標は達成できましたか」

(1回目)	1部	3部
できない	23.2%	29.2%
まあまあできた	73.2%	63.1%
できた	3.6%	7.7%

問4

(2回目)	1部	3部
できない	4.1%	12.0%
まあまあできた	87.6%	84.0%
できた	8.3%	4.0%

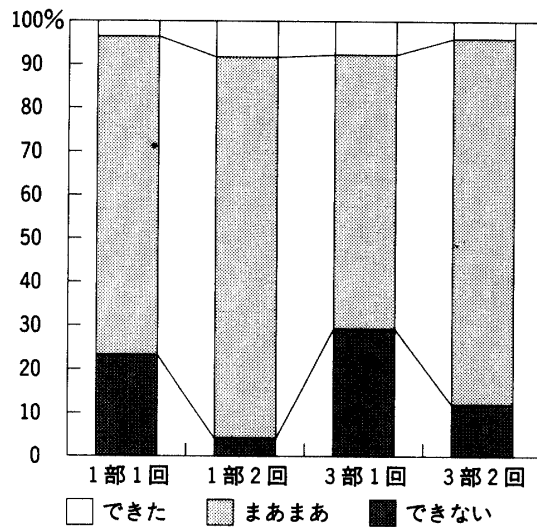


図2 目標の達成

目標達成率として全体に「できた」と評価した学生は少ない。そして1回目よりも2回目の実習のほうが意識的に目標に向けた実習ができたと判断できる。しかし3部の学生の中には1回目よりも、経験のある2回目のほうが目標達成できた数値(4.0%)が低い結果になっている。3部の1回目の「できない」学生(29.2%)は問2の実習感想でも「苦痛であった」と答えており、自分の思いが実習に反映されなかった事を示している。

問4 「保育現場は自分が予想し考えていたとおりでしたか」

半数以上の学生が抱いていた幼稚園のイメージは実際と違っていただけを示している。特に3部において「同じ」と感じた学生は0%である。初めて実習したことにもよると思われるが、今までと立場が変わった保育者(実習生)としての幼稚園との関わり方に戸惑いがあったのではないだろうかと思像する。

(1回目)	1部	3部
違っていた	53.1%	52.3%
ほぼ同じ	42.5%	47.7%
同じ	4.4%	0%

問5 「実際保育をし子ども達とかかわりあった感想はいかがですか」

半数以上の学生が、初めての实習にもかかわらず積極的に関わっていたことを示している。「入り切れなかった」学生に対しての今後の指導として保育の導入、遊びの導入の仕方など考えてやる必要がある。

(1回目)	1部	3部
入りきれない	5.3%	13.8%
普通に接した	37.2%	35.4%
積極的に関わる	57.5%	50.8%

問6(問7)「実習した幼稚園の保育形態は主にどのようなでしたか」

(1回目)	1部	3部
自由保育	6.4%	7.7%
混合保育	50.9%	70.8%
設定保育	42.7%	21.5%

問7

(2回目)	1部	3部
自由保育	6.2%	6.1%
混合保育	57.7%	49.0%
設定保育	36.1%	44.9%

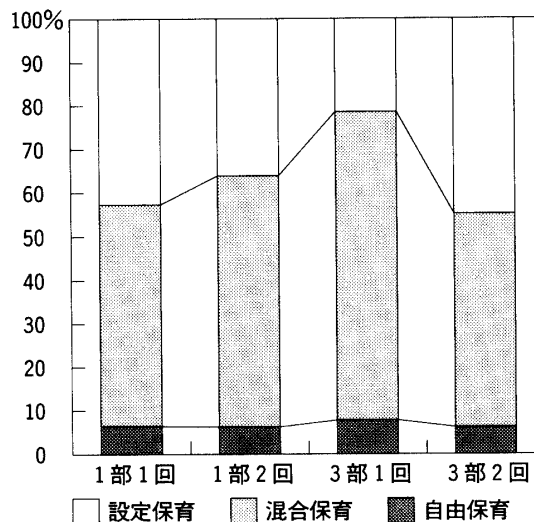


図3 保育形態

保育現場では自由・設定混合保育が約半数以上で自由保育のみで行っている

幼稚園は少ない。自由保育は保育者の力量が試され、あながち放任保育に陥る危険性がよく指摘されるためか2つの保育形態が大半を占めている。

問8(問9)「実習日誌・保育案及び提出物は決められた期日に提出できましたか」

(1回目)	1部	3部
できなかった	1.8%	1.5%
大体できた	13.4%	24.6%
できた	84.8%	73.9%

問9

(2回目)	1部	3部
できなかった	2.0%	2.0%
大体できた	18.6%	22.0%
できた	79.4%	76.0%

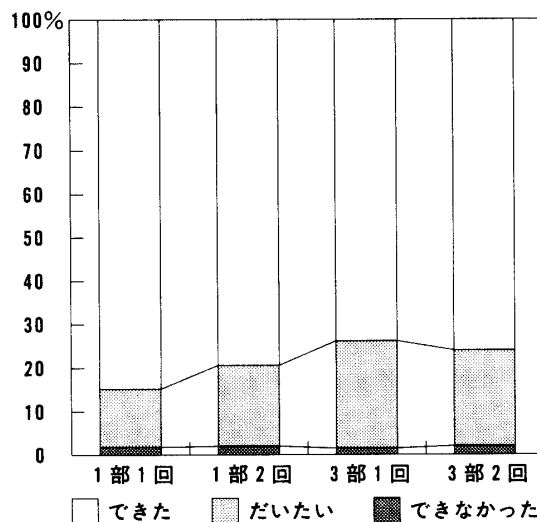


図4 提出物

殆どの学生が期日に提出できたと評価している。また3部生は仕事との関係で実習日誌や保育案を書くことが大変な作業のようである。殆どの学生は夜遅くまでかかりきって仕上げてるのが現実で、事前指導として保育案などは教材と同様準備していくことが望ましいと思われる。

問10(問11)「保育案を作成するとき、困った点を3つまであげて下さい」

実習に関する学生へのアンケート調査

実習生にとって保育案を書くとき一番多く上げている困った点・迷った点が「子どもたちがどのような事ができるか、どこまでできるかよく理解していない」である。保育者と違って日頃の子どもの生活や活動状況が把握できないことや発達に関する知識不足にもよるのであろう、具体的な活動内容が思い浮かばず苦慮しているようである。次に上げているのが「言葉かけ・導入の仕方・時間配分・援助の仕方・保育の進め方」など保育の技能不足からくる迷いである。いずれの点も保育経験によって解消されていくものと考えられる。保育は人間同士の関わりの中で進められ、子ども達個々の違いやその場その場の保育状況によって対応の仕方が異なる。保育者の技量が経験と知識の積み重ねによって生まれ、発揮できるかどうかが大きく問われる。(表2.表7参照)

問12(問13)「自分で用意した保育教材は何ですか」

(1回目)	1部	3部
絵本	15.3%	11.3%
紙芝居	96.4%	83.0%
手遊び	57.7%	35.8%
人形	11.7%	28.3%
その他	6.3%	11.3%

問13

(2回目)	1部	3部
絵本	29.8%	20.9%
紙芝居	88.3%	81.4%
手遊び	80.9%	58.1%
人形	10.6%	20.9%
その他	12.8%	23.3%

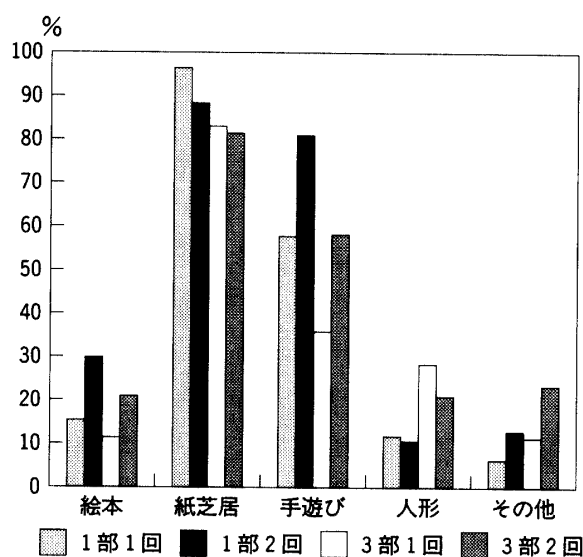


図5 保育教材

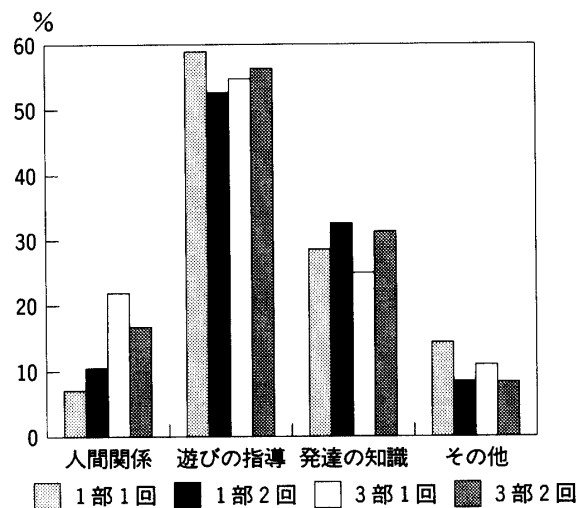
殆どの学生(100%)が教材を用意している。その中で一番多い教材として「紙芝居」が上げられ、次に「手遊び」となっている。実習指導室として紙芝居の貸し出しを積極的に行っていることと保育を任せられた時に手軽にできる教材の一つということであろう。手遊びも保育の導入や子ども達を集中させるときによく利用されるためか準備していく教材として学生達は考えている現れである。「その他」としてパネルシアター、折り紙、童謡、紙コップなどを上げていた。

問13(問14)「実習の中でどんな点が一番困りましたか」

(1回目)	1部	3部
園での人間関係	7.1%	21.9%
遊びの指導	58.9%	54.7%
発達の知識不足	28.6%	25.0%
その他	14.3%	10.9%

問14

(2回目)	1部	3部
園での人間関係	10.5%	16.7%
遊びの指導	52.6%	56.3%
発達の知識不足	32.6%	31.3%
その他	8.4%	8.3%



一番困った事として1部・3部ともに「遊びの指導」を上げている。「遊びの中での育ち」・「子ども達の生活自体が遊び」であることから、積極的に子ども達と関われば関わるほど遊びの種類、遊びの方法、遊びの発展などの知識不足・経験不足が出てきたのであろう。次に「発達に関する知識不足」を3割近くの学生が上げている。また1回目の3部学生は困った事として「園の中での人間関係」を上げている。日頃から寮生活をし人間関係に敏感になっているせい、園での保育者たちの関係が目につくのかもしれない。「その他」として、「言葉がけ」、「日誌・指導案の書き方」、「健康管理」などである。

問14 (問15)「園の指導についてとても参考になった点はどんな点ですか」

この問いに対して多くの意見がでた。いろいろな点で参考になることが多くあり、実習をした成果がよく分かる。「言葉がけ・遊び方・援助の方法・導入の方法・注意の仕方・自主性を育てる指導方法」など実際の保育者の指導方法を観察して、参考になった点が多い。具体的には「ハサミの使い方・絵本、紙芝居の読み方・手遊び・野菜の栽培」などがある。他には「危険への配慮・けんかしたときの対処の仕方・笑顔での対応・日誌の書き方」など実習して初めて理解することもあったようである。(表3.表8参照)

問15 (問16)「実習中、園の指導について不満な点はどんな点ですか」

2週間という実習期間はとても短い。保育自体がすこし理解し始めたころ、子ども達と馴れ親しみ始めたころに実習が終わってしまう。行事を控えた時の実習などそこにいろいろな条件が課せられる事もある。「保育者が忙しすぎてゆっくり話しもできず、指導もおろそかになった」、「雑用が多く子ども達と遊べなかった」などの不満がでた。(表4.表9参照)

問16「次の実習までにどんなことを学習・準備しておいたらよいと思うか」

実習に関する学生へのアンケート調査

保育に利用できる遊び（手遊び・集団遊び・折り紙遊び・ゲームなど短時間でできる遊び）、教材研究、保育案・日誌の書き方など1回目の実習の反省の上にたった学習である。またピアノの弾き歌い（幼児歌曲）の練習・紙芝居の読み方の練習なども多く上げられた。とにかく目的をもって積極的に実習ができるように健康管理をしたり保育内容の充実が主なものであった。（表5参照）

問17（2回目）「幼稚園実習に関して後輩にアドバイスするとすればどんな点ですか」
この質問に対しても多くの点がでてきた。2回目の実習の準備と同じ傾向が見られるが、実習の基本的な項目も多くある。「健康管理・笑顔を絶やさない・挨拶をする・積極的に実習に取り組む」など実習を自ら楽しいものにするよう心掛けることが一番大事なこととしている。他には保育がしやすいようにいろいろな教材研究の準備が上げられていた。（表10参照）

問17（問18）「実習し終えた今、保育者として何が一番大事だと思いましたか」
「保育者として」というよりも「人間として」と言う言葉に置き換えてもよいような答えが上げられた。「愛情・優しさ・笑顔・忍耐力・気配り・健康」をもって子ども達と生活することだと主張されている。（表6・表11参照）

問18（問19）「実習し終えた今、幼稚園の先生になりたいと思いますか。」（1部）

（1部）	1回目前	1回目後
思わない	8.0%	6.2%
迷う	23.0%	39.8%
思う	69.0%	54.0%

（1部）	2回目前	2回目後
思わない	8.4%	11.3%
迷う	23.2%	15.5%
思う	68.4%	73.2%

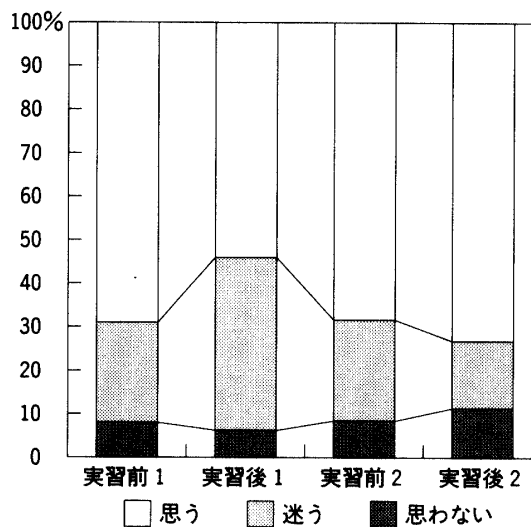
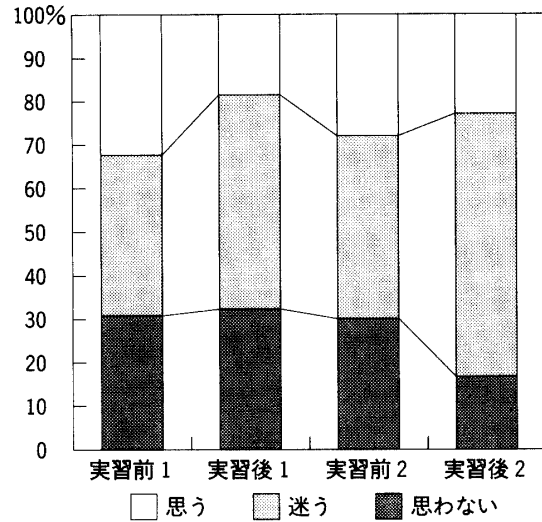


図7 保育者希望

問18 (問19)「実習し終えた今、幼稚園の先生になりたいと思いますか。」(3部)

(3部)	1回目前	1回目後
思わない	30.8%	32.3%
迷う	36.9%	49.2%
思う	32.3%	18.5%

(3部)	2回目前	2回目後
思わない	30.0%	16.7%
迷う	42.0%	60.4%
思う	28.0%	22.9%



保育者希望の調査結果である。1部生と3部生の数値の差がこれほど開いた結果はない。

全体的に1部の学生は幼稚園教諭の希望が多い。最終的には73.2%の学生になりたいとしている。思わない学生は1割未満であり、最終的には迷う学生は2回の実習により自分の意志をはっきりさせ15.5%となっている。これに反して3部の学生は実習前と比較して希望者が少なくなり、迷う学生が60.4%と増えている。希望しない学生は3割おり最終的には16.7%となりその差は迷うに気持ちが傾いたことを示している。実習経験を重ねることにより気持ちがはっきりしてくる動きは明かであるが、まだ実習に対して自分の力が出し切れておらず、保育者としての魅力が希薄であると感じる。

2 施設実習

学生にとって幼稚園・保育園・施設という3種類の実習経験する中で、一番期待と不安が入り交じった実習がこの施設実習であろう。日頃よりあまり障害者との交流が薄いことによる施設の理解不足や利用者の生活状況などを把握できないのが現状のようである。

このような学生に対して事前の実習指導はとても重要であり、実習の効果を上げるためにいろいろな方法で対処している。

1) 学内のオリエンテーション指導

授業の中ではできない施設の実態を紹介したり、利用者の実際の生活を紹介しながら施設を理解する。

2) 施設指導員を迎えて講話

実習を受けるにあたっての心構えや注意点、施設の様子を実際現場で指導している指導員の話を聞くことにより施設を理解する。

実習に関する学生へのアンケート調査

3) 施設見学

いろいろな施設を少しでも理解するために、事前に実習以外の施設を見学し施設の雰囲気を感じるとともに実習の心構えを培う。

4) 実習体験発表

実習を受ける1年生に対して、2年生5～6名が後輩たちに自分の実習体験を語ってもらい理解する。

このような事前指導を行っている。

施設利用者の現況は対象者が二重・三重の障害をもち、重度化している。その対応も多様化し、特に生活基本的な援助が求められている。体験のない学生にとっては利用者との関わりに悩み、苦労や困った点も多くあったようである。しかし実習をして初めて理解し感ずることも多くあることも事実であり、机上の知識や理論だけでは本当の意味での障害者の理解につながらないことを実習した学生自身が感じたようである。

どのような事を感じ理解したのか、また施設実習を通しての自己評価など実習した後のアンケート方式による調査結果から見て行くことにする。

問2「自分の実習目標は達成できましたか」

殆どの学生は、自分の目標に対して「できた」としている。実習をするに当たり、自分なりの目標に向けて実習していたことになり、施設実習の評価としては満足のいく実習であった学生が多いということであろう。

	1部	3部
できなかった	5.4%	4.2%
まあまあできた	73.9%	78.9%
できた	20.7%	16.9%

問3「実習を受けた感想はいかがでしたか」

問2と同じく、施設に対してとても良い印象であり、1部、3部とも「充実して楽しかった」学生が66%を占めていることに注目したい。実際実習をすることにより施設の雰囲気の良い事を知り、利用者の関わりがスムーズに運んだと見るべきであろう。

	1部	3部
苦痛であった	9.0%	5.6%
ふつう	24.3%	28.2%
充実して楽しい	66.7%	66.2%

問4「自分として実習評価をするとすれば努力したと思われませんか」

この問いでは1部と3部の学生の評価の差がこれまでと異なり現れている。3部の学生は施設実習に対して積極的でなかったし努力もあまりしなかったと評価しているのに反し、1部は積極的でなかった学生2.7%を除き殆ど努力したとしている。実習していく中で自分なりの努力が発揮され、成果を得て充実し楽しいものとなった結果であろう。

	1部	3部
積極的でない	2.7%	12.7%
ふつう	41.4%	47.9%
努力した	55.9%	39.4%

問5 「施設現場は自分が予想していたとおりでしたか」

	1部	3部
違っていた	72.1%	76.1%
ほぼ同じ	27.9%	23.9%
同じ	0.9%	0%

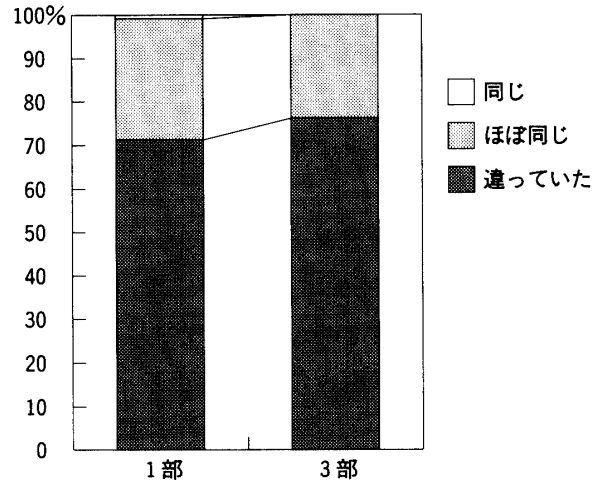


図9 自己予想

今まで施設に対して想像していたイメージが実習することにより大きく変わったことを示している。外見だけで判断をし「暗い」・「怖い」・「汚い」というマイナスのイメージが「素直」・「やさしい」・「人間らしい」というプラスに変わったことを示している。経験することにより学ぶことがこの実習において沢山あることを示唆しているようである。

問6 「実習中苦労したこと・困ったことがありましたか」

障害者も重度化し多様なニーズが求められる中で経験も知識もない学生にとって大変であり問題も多い。具体的には「言葉がけ」、「疾病などの看護の対処の仕方」、「排泄・食事・入浴など基本的な生活の援助」、「観察記録の書き方」、「10日間宿泊実習による睡眠不足」などがある。(表12参照)

問7 「実習で得たものは何ですか」

「障害者に対して差別や偏見をなくし、施設の見方が変わった」、「利用者はとても優しく忍耐力があり、一生懸命頑張っている姿に感動するとともに自分の行動を反省させられた」、「施設で働く指導員の苦労や喜びを知り、福祉の仕事に魅力を感じている」、「親に感謝する気持ちがでて来た。暇を見つけてボランティア活動をしたい」など人間としての原点にたった考え方をもう一度知る機会であった。(表13参照)

問8 「施設実習にあたりどんなことをもっと理解しておいたら良いと思いましたか」

各種類の施設によって、携行品、観察記録の記入の仕方、処遇方針が異なるので共通する施設の課題と施設の特徴を生かした内容の指導が求められている。オリエンテーションの機会に施設の概況や利用者の状況をよく把握して行くことも大事である。また医療的な知識や歌・手遊びなどの準備も必要である。(表14参照)

問9 「実習をおえて施設にお願いしたいことがありますか」

実習は施設内で泊まって実習するため、施設によって宿泊施設の良い施設と十分でない施設がある。設備（クーラー・洗濯機・浴場・外灯など）に対する要求が多い。また実習をおえた後ボランティアとして参加できるように希望している。(表15参照)

実習に関する学生へのアンケート調査

問10「実習をおえて本学の教員に伝えたい事・言いたい事がありますか」

“施設実習したことにより、自分をみつめる事ができ、より一層自分が大きくなったように思える”という意見が多く、施設や学校に対しての感謝の気持ちがでて来た学生がいることはとても喜ばしい事である。実習施設の希望は時期、施設の状況、養成校の都合により自分で施設を選択することはできない。学生にとっては希望する施設に実習できることを強く望んでいる。(表16参照)

問11「実習は自分にとってよい経験になりましたか」

この問いに対して100%の学生がとてもよい経験であったことを確認している。実習後の感想文や実習日誌を見ても、この施設実習が今までの自分の考え方・生き方を変えるような一つの出会いであったことが記録されている。

問12「実習し終えた今、保育者として何が一番大事だと思いましたか」

施設の直接処遇、職員に求められているのは、専門性と心豊かな人間性が調和しながら援助の効果を上げて行くことである。学生の多くは人間性、児童との深い人間的なつながりを上げている。(表17参照)

問13「自分も将来、施設の先生になりたいと思いますか」

	1部	3部
思わない	23.9%	21.1%
迷う	45.0%	50.7%
思う	31.2%	28.2%

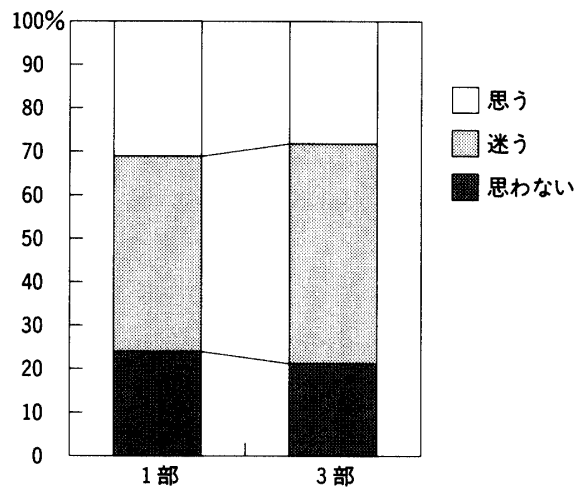


図10 施設希望

施設の指導員として働きたいと希望している学生が約3分の1の値を示している。実習を受けた感想にも現れているように、この問いに対しても学生にとって働く場所として施設は受け入れられている。今後の課題として就職指導にもつながるものとする。

3 保育所実習

「児童福祉法に基づき保育に欠ける乳幼児を保育することを目的とする児童福祉施設」である保育所は、幼稚園と異なり0才児から2才児の未満児保育が設置され、生まれて3カ月目の赤ちゃんから小学校就学前までの幅広い年齢の子ども達を対象に保育が進められている。他に「エンゼルプラン」に対応した長時間保育・一時保育など家庭や地域社会の連携による保育がなされ、これに伴う対応が要求されている。

この保育所実習は1部生にとって最後の実習になる。この実習に備えて、幼稚園実習と同じく事前・事後指導を行っている。幼稚園実習の反省のもとに実習目的を考えること、保育現場の講師を招いて保育園の子ども達の様子や実習の心得などの話を聞くこと、教材研究や指導計画の書き方などである。今までの幼稚園・施設実習の経験を十分に生かされた実習であったこと、そして新たに乳児保育経験したことで、より深い子どもの理解ができたのではないかと推察される。実習後のアンケート調査から学生の意識や意見をみて行くことにする。

問2「実習を受けた感想はいかがですか」

この実習が「苦痛であった」として捕らえた学生は少ない。数値からしても(3.7%、4.4%)いままでの実習のなかで一番低く、積極的に実習ができた現れである。反対に「充実して楽しかった」(71.0%、58.8%)は高い。幼稚園実習では40%前後、施設実習では66%となっており、比較すると保育所実習では殆どの学生がゆとりをもって子ども達と関わり、いろいろなことを体験し、参考になった点が多く、成果があったことを示している。

	1部	3部
苦痛であった	3.7%	4.4%
普通	25.3%	36.8%
充実して楽しい	71.0%	58.8%

問3「自分の実習目標は達成できましたか」

目標達成として「できた」と評価する数値は施設実習(20.7%、16.9%)と同じような傾向である。実習の感想と同じくプラス傾向である。1部生の「できない」(3.7%)は感想として「苦痛であった」(3.7%)とした学生であろう。全体の評価としてほしい「良い」としている。

	1部	3部
できない	3.7%	8.8%
まあまあできた	74.8%	80.9%
できた	21.5%	10.3%

問4「幼稚園実習と比較して、保育園実習中はゆとりがありましたか」

7割強の学生が「余裕がでてきた」と答えている。実習に対しての気持ちの余裕、時間的な余裕がこの数値に現れているのであろう。「感想」、「目標達成」「ゆとり」すべての項目に共通した結果となっている。

	1部	3部
大変であった	16.8%	17.6%
変化なし	9.4%	4.5%
余裕がでてきた	73.8%	77.9%

問5「保育現場は自分が予想し考えていたとおりでしたか」

半数以上の学生が「ほぼ同じ」と感じている。幼稚園の実習経験からか「違っていた」学生が38.3%となっており、幼稚園実習の53.1%、施設実習の71.2%と比較しても予想していた保育現場だった事を示している。

	1部	3部
違っていた	38.3%	45.6%
ほぼ同じ	52.3%	51.5%
同じ	9.4%	2.9%

実習に関する学生へのアンケート調査

問6 「実際保育をし子ども達とかかわりあった感想はいかがですか」

「実習を受けた感想」と「子ども達と関わりあった感想」は殆ど同じである。「ゆとり」の問いに対して「余裕ができた」と答えた学生が、子ども達と積極的に関わり、その結果実習自体が充実して楽しいと感じたのであろう。反対に「入りきれない」3.7%の学生は子ども達とうまくコミュニケーションができず、実習は苦痛であり、目標は達成できない結果となったことを示している。

	1部	3部
入りきれない	3.7%	4.5%
普通に接した	24.3%	28.4%
積極的に関わる	72.0%	67.1%

目標は達成できない結果となった

問8 「実習して保育園の保育形態はどのようでしたか」

保育形態として殆どの保育園が年齢毎の学年別保育をしている。幼稚園の「自由保育と設定保育の形態」と同じ傾向を示している。一週間統一して同じ形をとるのではなく、土曜日など時間的制約からくる保育の仕方など、

	1部	3部
縦割り保育	13.8%	16.7%
学年別保育	91.2%	83.3%

保育の内容により学年別であっても時には縦割り保育になることもしばしば起こり得ることである。縦割り保育をすることで、異年齢の子ども達の交わりによって育つものは大きい。それぞれの形態の利点を生かした弾力的な保育をすすめることによって、子どもの成長があるものと考えられる。

問9 「実習日誌・保育案および提出物は決められた期日に提出できましたか」

殆どの学生が期日までに提出できたとしている。3部生の「できなかった」学生(1.5%)は幼稚園実習の時とおなじ1.5%の数値である。決められたことを期限までにすることは実習だけに限らず全てに言えることである。

	1部	3部
できなかった	2.8%	1.5%
大体できた	15.1%	27.9%
できた	82.1%	70.6%

問11 「保育案を作成するとき、困った点を3つまであげてください」

幼稚園実習と殆ど同じである。「各年齢によってどの程度のことができるか、興味があることは何か予想できない」とし、具体的な保育内容を決めるときにまず苦慮したことを示している。そして「言葉がけ・時間配分・導入の仕方・発展の仕方・援助の仕方」など保育の技量不足を上げている。保育園実習として新たに1・2才児の子ども達に対して「何もできない、何をしたらよいか分からない」とし、未満児保育の理解不足が出て来た。また1部生にとっては夏の実習ということで「一日の生活の流れがプールとお昼寝に決まっていた」とし変化のない活動に戸惑いを感じていたようである。(表18参照)

問13「自分で用意した保育教材は何ですか」

	1部	3部
絵本	33.6%	13.2%
紙芝居	79.4%	80.9%
手遊び	20.6%	19.1%
人形	90.7%	77.9%
その他	9.3%	19.1%

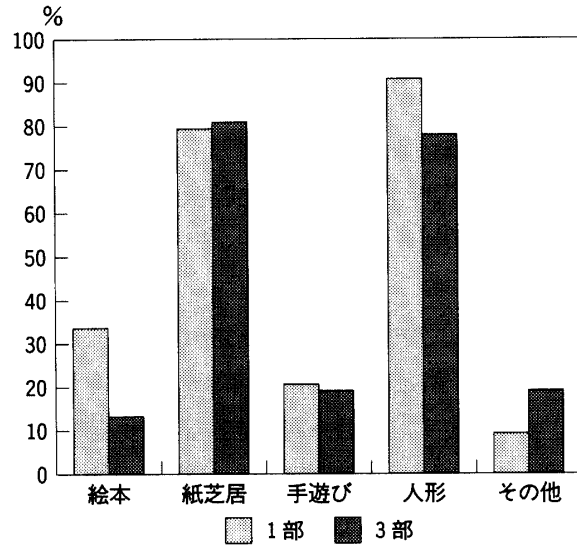


図11 保育教材

この実習でも殆どの学生が教材の用意をしている。幼稚園実習と比較して大きな変化が出てきた。教材として一番多いものが「紙芝居」に変わって「人形」（1部生90.7%）である。児童文化や保育内容演習の教科の知識を子ども達に実践したのであろうと思われる。「手遊び」も同じく幼稚園実習の場合、80.9%から20.6%と数値的には大幅に減少していることが分かる。乳児に対しての教材として「手遊び」よりももっと具体的な「人形」のほうが保育しやすいと判断したのであろう。また「紙芝居」は80%台で準備しやすい教材であることを示している。「その他」として折り紙や楽器などを上げている。

問14「初めて乳児保育にかかわりあった感想や注意する点など2つまであげてください」感想として「とてもかわかった」、「言葉がけ・気配りがむずかしい」、「個人差があるので食事や排泄などどこまで援助してよいか迷った」、「子どもの本来の姿がみられた」、「日を追うごとに成長発達する姿が感じられた」などを上げている。また注意する点として「安全面に注意する」、「視診をするなど健康面に注意する」、「やさしく、根気強く接していく」、「言葉が話せないぶん子どもの行動を見て対応する」、「すぐに援助せず、どのような行動をとるか見守ることが大切である」などをあげている。（表19参照）

問15「実習の中でどんな点が一番困りましたか」

	1部	3部
園での人間関係	29.6%	33.3%
遊びの指導	88.8%	40.4%
発達の知識	62.2%	56.1%
その他	9.2%	17.5%

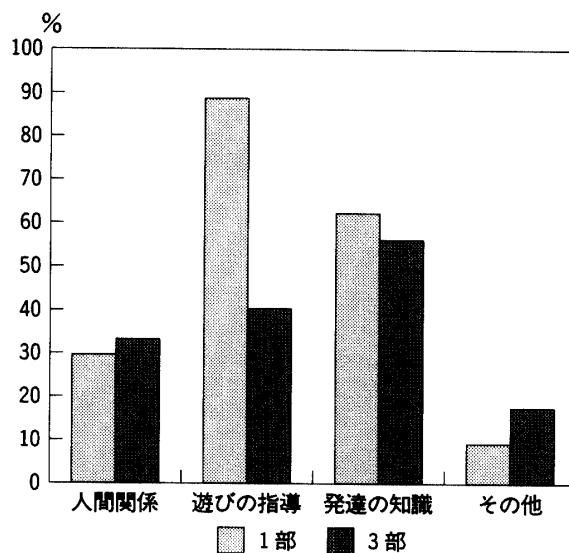


図12 困ったこと

幼稚園実習と比較して「発達に関する知識不足」をあげている学生が多い。とくに3部生にとって一番困った点として上げている。

「遊びの指導」として1部生は幼稚園実習と同じく一番に上げているが、3部生は数値として半分である。「園の中での人間関係」は幼稚園実習よりも全体に多い。この原因は複数の

の保育で未満児保育を担当していることによるのではないかと推察される。保母同志の連携により保育を進めていくことによる気配りの大変さを感じたのかもしれない。

問16「実習中、園の指導についてとても参考になった点はどんな点ですか。2つまであげてください」

いろいろな点で参考になったと答えている。保育の仕方全般におよぶもので「注意の仕方・援助の仕方・導入の仕方・障害者の接し方・食事指導の仕方・プール遊びの指導の仕方など」である。子ども達の自主性を大切にしながら遊びを工夫し、のびのびとした保育に取り組んでいる現場の保育者に学ぶことが多かったことを示している。(表20参照)

問17「実習中、園の指導について不満な点はどんな点ですか。2つまであげてください」
保育者との会話不足からくる不満(「忙しくて担任の先生と話せなかった」・「突然保育をまかされた」)、給食指導に対しての疑問(「子ども達の食事の量を体にあわせて盛り付けたほうがよい」)、自由保育に対しての戸惑い(「自由すぎて何をしたらよいか分からない」)などが上げられていた。(表21参照)

問18「保育園実習に関して後輩にアドバイスするとすればどんな点ですか。3つまであげてください」

殆ど幼稚園実習と同じである。「積極的に子ども達の中に入りいっしょに楽しむ」ことをまず第一にあげている。実習目標をしっかりと決め、常に笑顔で子ども達に言葉がけをするために自分自身の健康管理と積極的な実習参加が大事だとアドバイスしている。また事前の教材研究としてすぐ保育に利用できる実技に手遊び・幼児歌曲の弾き歌い・紙芝居や絵本の読み方などの準備が必要だとしている。(表22参照)

問19「実習し終えた今、保育者として何が一番大事だと思いましたか」
 「子ども達一人一人のことをよく理解する」・「子ども達と共感する」・「子どもが好きであること」など子どもの理解や信頼の上に保育がなり立っていることを、実習をとおして体得したようである。(表23参照)

問20「自分も将来、保育園の先生になりたいと思いますか」

(1部)	実習前	実習後
思わない	20.5%	63.9%
迷う	10.3%	19.7%
思う	69.2%	16.4%

(3部)	実習前	実習後
思わない	33.3%	60.3%
迷う	15.6%	12.1%
思う	51.1%	27.6%

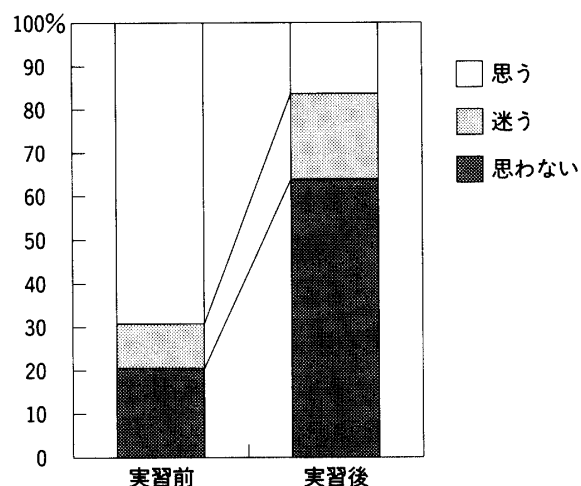


図13 保育者希望

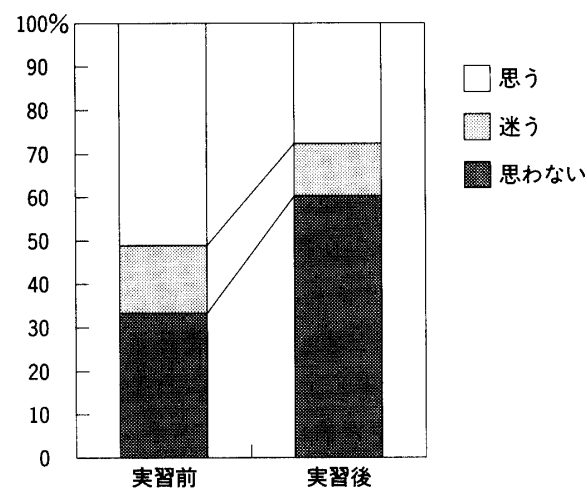


図14 保育者希望

最後の実習である保育所実習での保母志望の結果である。実習経験した後の「思わない」学生が60%以上いる。実習前の「思う」数値と同じになり、実習した結果「保母」としてあまり魅力を感じられなかったとしている。実習中「充実して楽しい」・「積極的に子ども達と関わり」

・「余裕をもって実習した」にもかかわらず保育園の先生としてはあえてなりたいと思う学生が少なかった。幼稚園教諭・施設指導員と比較した結果、保母希望が一番少ないということは、多様なニーズに対応することの大変さを感じたのか、乳児保育の大変さを知ったのか定かではないが、保母養成校として今後の実習指導やカリキュラムの充実をはかることによって問題解決の糸口を模索することが必要と考える。

VI おわりに

今日多様化・複雑化されたといわれる保育の中で保育者は、親との連携を常にはかりながら健やかな子どもの成長を願いつつよりよい保育を試行錯誤している。学生は実習を通してこのような保育現場の実際を経験するのであるが、実習に向けて保母養成校は学生に対して積極的に実習に参加できるよう、また実習園に対しても学生を積極的に受け入れられるように事前指導をすることで、実習園・養成校・学生の3者の共通理解と連携を獲得することが大切だと考える。今回、よりよい実習指導のあり方をさぐるために、基礎資料の1つとして学生の実習における意識調査を試みた。実習に対する態度、自己評価、実習園の指導のあり方および将来の進路希望などである。

幼稚園・施設・保育所実習の教育施設と福祉施設を実習経験した結果、殆どの学生は自己評価として実習に対して積極的に取り組んだようである。特に施設実習においては今までの施設現場に対して抱いた予想に反してとてもよく、よい経験であったこと、そして障害者に対して差別や偏見が取り除かれ、施設に対しての見方が変わったことを多くの学生が答えている。また、実習にあたって殆どの学生が教材を準備したようである。紙芝居や手遊びが主であるが、保育実習では人形と紙芝居をあげ手遊びは幼稚園実習と比較して教材としてはとても少ないことが目につく。困ったこととして遊びの指導の技術不足が最も多かった。また年齢の巾が広い保育所の場合、発達に関する知識の理解不足も半数以上の学生があげている点を今後の学習指導に参考として指摘したい。将来の保育者希望として1部生の学生は幼稚園教諭を希望しており、保母としては実習前と実習後では思わない学生が多く増えたことは、今後の実習指導やカリキュラムの充実と検討が課題として残された。そして施設指導員の希望学生が1部、3部ともに3割いたことは、就職指導や受け入れ施設の開拓にも一層の努力が養成校として問われているのではないだろうか。

今後の実習指導のすべき役割として、今回の学生の意識調査の結果を踏まえ不備な点の解消と指導の充実を図ること、そして現場との連携を密にしながらよりよい保育者像を常に求めつつ指導することが大切だと考える。

幼稚園実習アンケート（1回目）

表2 問10 保育案を作成するとき、困った点を3つまであげてください。

1 部	3 部
<ul style="list-style-type: none"> ・言葉がけの書き方 ・子どもたちがどのようなことができるか、どこまでできるかよく理解していない ・子どもの予想活動を書くときいろいろな場面があり迷う ・製作をするとき個人差があり、早い子ども・遅い子どもの進め具合や対応の仕方に困る ・導入の仕方（興味を引き出す方法） ・時間配分 ・書き方が分からない（ねらい） ・援助の仕方（子どもがどんな行動をするか予想ができない） ・保育の内容、何をしたらよいか ・保育の進め方が分からない ・3, 4, 5才児の縦割り保育をする場合の書き方（対象者など） ・子どもたちにどのようなものを作るか説明するとき伝わるかどうか 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの行動が予想できず「予想される活動」が書けない ・子どもたちがどれくらいできるか分からず活動範囲が書けない ・作成の仕方、進め方、書き方が分からない ・導入方法が分からない ・言葉がけの仕方 ・子どもたちの興味を引き出し方 ・雨の時の遊び ・縦割り保育だったことからそれぞれの年齢でなにができるか理解できなかった ・時間設定が難しい ・「ねらい」と「幼児の姿」の違いを考えるのに困る ・まとめの仕方、活動の最後をどのようにしたらよいか分からない ・指導者が全くノータッチだったのでなにを書けばよいか分からない

表3 問14 実習中、園の指導についてとても参考になった点はどんな点ですか。
2つあげてください。

1 部	3 部
<ul style="list-style-type: none"> ・園児との関わり方 ・言葉がけ ・遊び方 ・援助の方法 ・けんかをしたときの対処の仕方 ・導入の方法 ・挨拶を大切にしていること ・注意の方法 ・手遊びを取り入れている（集中させるとき、導入のとき） ・笑顔での対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・けんかのときの指導（お互いの話を聞いて仲良くさせる） ・言葉がけ ・園児との接し方（対応の柔軟性） ・いけないことはいけないとはっきり言う ・子どもたちに何かしてあげるのではなく援助するという考え方 ・けがをしたときや悪いことをしたときの対応の仕方 ・子どもに聞こえるように大きな声で話す ・自主性を育てるような指導の仕方

実習に関する学生へのアンケート調査

<ul style="list-style-type: none"> ・自分からさせる (自主性を育てる) ・後かたづけの指導を大事にしている ・子どもたちのまとめかた ・悪い事をしたときはその場でしっかり注意する ・やる気のない子どもに意欲をわかせる方法 ・保育者に集中させる方法 ・紙芝居の読み方、絵本の読み方 (読むまでの導入の仕方) ・すぐに援助するのではなく、見守ることの大切さ ・何事でもまずは幼児の意見を大切にしていること ・危険への配慮 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶 (朝や食事のとき) ・日誌の書き方 ・自分が積極的に活動ができるようになった ・自由保育の形態 (自由に遊ばせているがあまりもあった) ・絵本、紙芝居の読み方 ・手遊び ・ハサミの使い方 ・片付けの指導 ・保育者が子ども一人一人になるべく声をかけるようにしていた ・畑で野菜を育て観察をしていた
--	--

表 4 問15 実習中、園の指導について不満な点はどんな点ですか。2つあげてください。

1 部	3 部
<ul style="list-style-type: none"> ・実習期間中担当の先生がとても忙しく保育の仕方などあまり指導されなかった ・行事にむけ劇ばかりで通常の保育が見られなかった ・もう少し子どもたちと一緒に遊んだりする時間があるとよい ・必要以上に叱ること ・太鼓(鼓笛)の練習が厳しい ・行事のあるごとに園児の活動が多い ・練習が厳しい ・先生たちの笑顔が少ない ・先生と話す機会が少ない ・いけない点をしっかりと指摘してほしい ・他の先生との交流が殆どなかった ・他のクラスによく行かされ、自分の担当のクラスをよく見ることができなかった ・遊戯室を園児が自由に使えなかった ・同じ園でも一人一人の先生の方針が違う ・帰る時間が遅い ・反省会を設けてくれない 	<ul style="list-style-type: none"> ・もう少し子どもたちとかかわりあう時間がほしい ・雑用が多かった ・日誌の量が多すぎる ・オリエンテーションのとき園長先生の質問が難しすぎて答えられなかった ・遊び場が少ない、狭い ・先生の指導があまりなかった ・行事が多くゆっくり指導できなかった ・行事の指導が強制的すぎる ・途中で先生が用事でいなくなってしまった ・給食の時間が一定でなく、半日実習のため一人で食べるが多かった ・園児が登園してきて自由に遊べる時間があっても毎朝仕事をしていた ・先生たち自身あまり園児と遊んだり、話したりしていない ・子どもたちの遊びに範囲が決められていた (これはダメ、あれはダメ) ・注意ばかりで褒められなかった ・忙しさにまぎれて反省会がなかった

表5 問16 次の実習までにどんなことを学習・準備しておいたら良いと思いましたか。

1 部	3 部
<ul style="list-style-type: none"> ・手遊びを沢山覚える ・ピアノの練習をする (オルガン、園で歌っている曲) ・紙芝居の読み方の練習 準備 ・絵本 // ・歌を覚える (弾き歌い) ・短い時間でできる遊びの準備 (集団遊び、外遊び、折り紙遊び、ゲーム、ハンカチ遊び) ・言葉がけ ・積極的に動く ・部分保育、一日保育、研究保育の内容や方法の準備 ・年齢に合った発達状況を把握しておく (発達に関する知識) ・指導案をよく考えておく ・健康状態を整えておく ・導入の仕方 ・子どもたちが生き生きと活動できるための指導と援助の仕方 ・前回の実習日誌を読み返し、反省する ・教材を用意する 	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に遊べるものの準備 (集団遊び) ・手遊びの用意 ・紙芝居の読み方の練習、準備 ・指導案の書き方 ・日誌の書き方 ・年齢における発達に関する知識 ・折り紙のおり方を知る ・言葉がけ ・ピアノの練習 (弾き歌い) ・季節にあった活動を考える ・先生方に対する正しい礼儀、挨拶、敬語の使い方 ・園児の行動から保育者としての対応の仕方を考える ・課題をもって積極的に自信をもって実習する

実習に関する学生へのアンケート調査

表6 問17 実習を終えた今、保育者として何が一番大事だと思いましたか。

1 部	3 部
<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔で接する ・行動力 ・言葉がけ ・指導力 ・子どもの立場にたった考え方、関わり方、援助の仕方 ・その場に応じた判断力 ・悪いこと、良いことの区別をしっかりと言えるようにする ・子ども一人一人の理解と適切な援助 ・できないことはしてあげるのではなく、見守って少しずつ援助していく ・健康管理 ・一人一人の園児を好きになること (良いところを見つける) ・子どもたちに対する思いやり ・愛情、優しさ ・全体に気配りをする ・子どもたちの事を第一に考える ・自分自身の資質を高める ・「ありがとう」の気持ち ・発達、成長の課程を見ながら適切な指導、援助をする ・忍耐力、根気 ・子どもたちと一緒に遊んで遊ぶ、触れ合う ・子ども、父兄からの信頼関係 ・待つ心、見守る視野の広さ ・子どもたちの目の高さで向かい合う ・できたことに対し褒める ・挨拶 ・安全な配慮 ・プライドを傷つけない叱り方 ・喧嘩の対処の仕方 (子どもの言い分を良く聞く、後のフォローを大事にする) ・子どもの夢、創造力を膨らませるような保育 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの立場にたつて理解する ・子どもたちとの触れ合い、関わりの方 ・園児一人一人平等に接し、言葉がけながら援助していく。 ・言葉がけ ・いつも笑顔でハキハキと接する ・愛情 (優しさと厳しさ) ・子どもが好きであること ・健康であること ・待つということの大切さ ・積極的な行動力、意欲があること ・信頼関係を築く (心と心) ・子どもたちと一緒に共感する ・子どもたちがのびのびできる環境作り ・気配り ・子どもをよく観察する ・明るいこと ・善悪の区別をはっきりさせる指導 ・自分だけでなく他者や回りの人も大切にすること ・遊びや生活の中で驚きや感動する喜びを味わう ・自分の子どものように育てる

幼稚園実習アンケート（2回目）

表7 問11 保育案を作成するとき、困った点を3つまであげてください。

1 部	3 部
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちがどのくらいの活動ができるか分からず内容が予想できない ・時間配分 ・年齢にあった活動、主活動をどのようにしたらよいか ・援助の仕方 ・保育の進め方、展開の仕方 ・書き方が分からない ・教材について（何を使えば良いか） ・ねらいの設定 ・子どもたちが何に興味をもち、関心をもっているか分からない ・導入の仕方 ・各年齢による発達に関する知識不足 ・保育案を提出する時間が短い ・クラスの子どもたちの実態を把握されていない ・書くときの言葉づかい（表現の仕方） ・個人差が大きいので遅い子、早すぎる子への対応 ・とても細かいところまで書かなくてはいけなかったこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちは何ができ、何ができないか分からない ・時間配分 ・保育内容（何をするのか） ・導入の仕方 ・言葉がけ（興味をもつような、導入の時、終わる時など） ・ねらいの書き方（保育内容とあっていない） ・書き方が分からない ・援助の仕方 ・留意点の書き方 ・保育内容の進め方 ・発達段階に応じた活動を考えることが難しい ・子どもたちがやらない時のことも考えておく必要がある、と言われた ・大学でならった書き方と違っていた ・月齢差があるので皆ができることを考えることが難しかった

表8 問15 実習中、園の指導についてとても参考になった点はどんな点ですか。2つあげて下さい。

1 部	3 部
<ul style="list-style-type: none"> ・導入の仕方 ・指導方法 ・子どもたちとの接し方 ・援助の仕方 ・一人一人の園児に注意をはらい、細かいところまで気を配っていた（安全性） ・外での遊びが多かった ・子ども同志の喧嘩の時、子どもの目線に立って両方の話を聞いていた ・子どもたちを集中させる、引き付ける方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉がけ ・子どもたちの自主性を育てる（自分でできることはどんどんさせ、働きかける） ・保育案の書き方を教えてもらう ・子どもを集中させる方法 ・援助の仕方 ・大きな声で話す ・導入の仕方 ・保育指導の仕方 ・教材や遊び道具の準備の仕方、選び方

実習に関する学生へのアンケート調査

<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの気持ちを大切に無理やり押し付けたりしない ・先生方がとても明るく元気であった ・はじめをつけ方 ・子どもたちの主体性を大切にしている ・やってはいけないことはしっかりと注意する ・園児と接するときの保育者の姿勢 ・音楽指導 ・自由保育と設定保育の違いがわかる 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの前に立ったらわかりやすい言葉で話す ・外で元気に楽しく遊ばせること ・オルガンの弾き方 ・いそがしくても園児の質問をきいてやる ・自分が楽しむことで子どもたちも楽しく遊ぶことができる ・ケガをした時の対応 ・子ども全体に目を向けた指導
---	--

表9 問17 実習中園の指導について不満な点ばどんな点ですか。2つまであげて下さい。

1 部	3 部
<ul style="list-style-type: none"> ・設定保育ばかりであった ・子どもたちと外で遊ぶことが少なかった ・何も指導されなかった ・実習生に対して冷たい ・いつも子どもたちが時間に追われているようであった ・子どもたちが放送で動かされていた ・プール指導がきつい ・雑用が多い ・子どもの意見を聞きすぎると進まないのといけな いと言われた ・高度なことをしているのについていけない子ども がいる ・指導案を作る時間が短い ・指導案を1日に3つ書くようにいわれた ・時間により区切られているので遊びが中断してし まう 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事が多い ・雑用が多い ・自由時間は掃除ばかりで子どもたちと遊ぶ時間が ない ・時間にゆとりがない ・先生たちの人間関係 ・もっと悪い点を指摘してほしい ・鼓笛などもっと楽しくできる方法を考えたほうが よい ・日誌の量が多い ・実習生に対する態度がよくない (相手にして もらえない)

表10 問18 幼稚園実習に関して後輩にアドバイスをするとすればどんなことですか。
3つまで上げて下さい。

1 部	3 部
<ul style="list-style-type: none"> ・遊びを沢山用意しておく (導入がしやすい) ・自分から進んで園児の中に入って行く ・笑顔を絶やさない ・元気よく挨拶する ・積極的に自ら仕事を見つけて動くこと (やろう、学ぼうの姿勢) ・分からないことがあったとき、できるだけ先生に聞いた方がよい ・健康管理 ・大変だけど頑張る ・保育案は早めに考え、書いておいたほうがよい ・実習生同志固まらない ・教材の用意 (紙芝居、絵本など読んでおく) ・常に周囲に気を配り事故のないようにする ・園の状況を理解しておく ・子どもの目の高さで話したり、遊んだりする ・子どもたちの話をできるだけ沢山聞いてあげる ・言われる前に気づいてすぐ動く ・大きな声をだす ・ピアノはいろいろな曲を弾けるとよい、歌のレパートリーを広げておく ・まず始めに子どもたちの名前を覚えることが大切である ・実習前に何を学か目標をしっかり考えておく ・よく遊ぶこと ・実習は楽しんでやること ・先生方の園児に対する関わり方をよく学ぶこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から進んで関わりをもち遊ぶ ・健康管理 ・ピアノを沢山練習しておいた方がよい ・紙芝居、絵本の用意 (読み方の練習) ・分からないことは積極的に聞く (独断しない) ・常に笑顔で接する ・積極的に行動する ・先生や園児には大きな声ではっきり話す ・挨拶はしっかりする ・提出物は決められた期限内に出す ・主な活動で作るものを決めておく ・子どもたちの好きなアニメを知っておく ・いろいろな遊びを沢山知っておく ・年齢にあった発達の知識を知っておく ・落ち着いた気持ちで周りの状況に気配りをする ・日誌、指導案を前もって検討しておく ・最後までやり通すこと (失敗してもめげない) ・子どもたちと同じ目線で話をする ・毎日目標を立てて実習に行く ・名前はできるだけ早く間違えないように覚えてあげる ・プレゼントを用意しておく ・良いこと、悪いことの区別をはっきり言えるようにする ・子どもたちに教えてもらうつもりで肩の力を抜いて自分が楽しめるような実習にする

実習に関する学生へのアンケート調査

表11 問19 実習し終えた今、保育者として何が一番大事だと思いましたか。

1 部	3 部
<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔を絶やさない ・元気に遊ぶ体力 ・健康管理 ・子どもたちの考え方や気持ちを理解し、子どもたちの立場にたって考え行動する ・子ども一人一人に愛情をもって接する ・一人一人の園児にあった接し方をする ・子どもたちに対する思いやり ・子どもたちとの信頼関係 ・指導するのではなく見守る ・言葉ははきはきと元気よくする ・自分自信保育を楽しむ ・子どもたちと同じ目線でものを考える ・子どもたちをひきつける保育者 ・ゆとりのある保育 ・自分のすることにたいして自信をもつ (保育者としての自覚) ・その場その場に応じた対応 ・自分の気持ちで子どもたちの接し方を変えない ・視野を広くして誰が何をしているか把握すること (安全確認) 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉がけ ・笑顔 ・子どもたちと同じ立場にたって関わっていく ・健康管理 ・体力 ・園児一人一人を見る ・子どもたちの喜びが自分の喜びとするような広い心 ・子どもが好きであること ・見守ること ・子どもたちの目をみて、分かりやすく話をする ・子どもたちが安心して生活ができるような環境を作る ・何事もあわず落ち着いて行動すること ・子どもたちへの愛情 ・気配り ・注意した後のフォローを考える ・大きな声 ・子どもたちとのコミュニケーションを大事にする

施設実習アンケート

表12 問6 実習中苦労したこと・困ったことがありましたか。

1 部	3 部
<ul style="list-style-type: none"> ・知的障害が重く、言葉がけが難しい ・疾病、ホッパなど看護の対応がわからない ・入所者の生活の援助 入浴、排泄などどこまでするとよいか ・一つの仕事を終えた後、何をしたらよいか教えてもらえなかった ・観察記録の書き方で苦労した ・入所者から無視される、反対に結婚してと言われ困った ・実習期間が長すぎ睡眠不足となる ・恐怖心が終わりまでであった 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者からの質問についての返答が困った ・興奮して抱き着かれ、髪をひっぱられ、殴られたりした ・観察記録の書き方 ・自分(実習生)の住所や電話番号を何度もたずねられる ・排泄、食事、入浴の援助の仕方 ・重度障害者の対応の仕方 ・指導員に教えてもらえなかった ・宿泊実習のため睡眠時間が少ない

表13 問9 実習で得たものは何ですか。

1 部	3 部
<ul style="list-style-type: none"> ・特別視や偏見がなくなる ・養護施設のすばらしさを知る ・家族の大切さを知る (自分は幸せだと感じる) ・児童との信頼感、実習をやり終えた充実感と満足感 ・思いやり、人を愛すること、笑顔、豊かな心、人権の保証等の大切さを知る ・同じ障害でも援助の方法が異なる ・施設保母の役割を知る ・小さな行動に感激し、感謝する気持ちができた ・障害についての知識が増え、施設の見方が変わる ・指導員の利用者に対する対応仕方 ・アフターケアの実際を知る ・お金の大切さ、言葉の大切さを知る ・園生さんたちの優しさや忍耐強さを知る ・自分の考えが大きく変わり大人になったと思う ・ボランティアや福祉の仕事に魅力を感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者に対して偏見がなくなる ・利用者も私たちと同じ人間である ・一生懸命生きておられる姿、頑張っておられる姿に感動した ・思いやり、暖かさ、優しさを学ぶ ・施設で働く職員の勤務の大変さを知る ・利用者は笑顔や純粋な気持ちをもっている ・知的障害者を理解する施設で働きたい ・自分が社会で普通に暮らせることを喜び、両親に感謝したい ・施設は必要である、暇をみてボランティア活動をしたい ・指導方法を知る

表14 問8 施設実習にあたりどんな事をもっと理解しておいたら良いと思いましたか。

1 部	3 部
<ul style="list-style-type: none"> ・措置の理由や障害者の程度について知っておく ・子どもの権利条約 ・歌、手遊び、手話、遊び方 ・施設の概況を知っておく (事前に見学をしておく) ・高校生との接し方、対応の仕方 ・実習日誌の書き方の理解 ・福祉専門用語理解 (はじめは怖かったがみんな優しい) ・施設の運営、措置費の理解 ・高校1年程度の英語や数学の知識 ・園児共通の話題 ・調理の手伝い実習があった ・笑顔、明るい態度、大きな返事、挨拶 ・施設ごとのグループでの話し合い 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状態をよく知る ・言葉のない人、行動の激しい人、暴力の出る人に対する援助方法や技術 ・病弱、ダウン症、てんかんなど医療的知識の理解 ・施設の目標や一日の日課を知る ・指導員や保母さんとの関わり方 ・先生という立場でなく、一人の人間として一緒に生活するという気持ち ・オリエンテーションの時よく聞いておく ・手遊び、ゲームの仕方などの用意 ・あまり心配するよりそのまま受け入れて実習し学ぶ

実習に関する学生へのアンケート調査

表15 問9 実習をおえて施設にお願いしたい事がありますか。

1 部	3 部
<ul style="list-style-type: none"> ・一生懸命頑張っているが認めてもらえない (記録の助言) ・開かれた施設になってほしい ・オリエンテーションは実施してほしい ・施設へボランティアとして参加させてほしい ・施設のある施設は鍵を貸してほしい ・実習しやすい環境を整えてほしい (クーラー) ・外灯があると助かる ・勤務する時間が長すぎる ・洗濯を十分させてほしい ・質問したいことが気楽に言える雰囲気を作ってほしい ・指導される時、分かりやすくていねいに指示してほしい ・宿泊料金が高すぎる 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の方と話をする機会が少ないので多くしてほしい ・実習生のゲストハウスの整備 (クーラー・洗濯機・浴場) ・実習生と呼ばないで名前を呼んでほしい ・利用者の中で特別援助が必要な方について教えてほしい ・利用者の方にもっと運動をさせてあげたい ・勤務外なのに朝食を食べさせられた ・利用者に対して暖かい援助がなされ、ボランティアとして参加したい施設でした

表16 問10 実習をおえて本学の教員に伝えたいこと・言いたいことがありますか。

1 部	3 部
<ul style="list-style-type: none"> ・施設の決定は自分たちで決めたい ・とても良い体験ができ、また楽しくできたことを喜んでいる ・幼稚園や保育園でもよいが施設で働いても良い (数が多い) ・障害についてもっと学習しておくように言われる ・長期間の実習をしたい (数人) ・異なる施設にも実習に行きたい ・どのようにしてグループ分けをしたのか ・施設の対応に感謝している ・施設実習があることに感謝している 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習はとても良い経験で指導員となる夢ができた ・実習日誌の書き方をていねいに指導された ・夜勤がないかわりに厨房実習があり困った ・一人実習はやめてほしい ・すばらしい施設で自分が予想していたより充実して楽しかった ・自分の希望する施設で実習したい ・実習施設としてとても良い施設でお礼を言っほしい

表17 問12 実習し終えた今、保育者として何が一番大事だと思いましたか。

1 部	3 部
<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔、優しい、平等、相手の気持ちがわかる ・入所者と共に生活する ・信頼関係をつくる ・人権尊重、人命尊重 ・話を聞いてあげる ・個々の観察や理解をした上で援助をする ・障害者に対して特別視や偏見をもたない 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者に対しての思いやりと優しさ ・一人一人の意志を尊重する ・いつも笑顔と挨拶 ・共に学び成長していくこと ・愛情 ・同情するのではなく理解していくこと ・一人の人間として尊重 ・保母と入所者との信頼関係 ・子どもをよく知ること ・だれにも平等に対応 ・一般常識と優しさ ・明るさ、元気、信頼 ・あせらずその人にあった援助をする

保育園実習アンケート

表18 問11 保育案を作成するとき、困った点を3つまであげてください。

1 部	3 部
<ul style="list-style-type: none"> ・各々の年齢でどの程度できるか、興味があるかなど子どもの活動が予想できない ・時間配分が分からない ・書き方が分からない ・手順として導入の仕方、発展の仕方が分からない ・主活動で何をするのかとても困った ・どのようにしたら楽しんでもらえるか迷う ・自由保育で全員で何かをするときの保育案の書き方が分からない ・援助の仕方が分からない ・教材研究不足 ・子どもたちの行動を予想することができない ・年齢に合った遊びが見つからない ・発達に関する知識不足 ・保育案を提出するまでの時間が短い ・幼稚園のときの保育案とは違っていた ・未満時の子どもたちが集中していられるか、不安であった 	<ul style="list-style-type: none"> ・各年齢によってどの程度のことのできるか、興味があるか予想できない ・言葉がけ ・発達に関する知識不足 ・手順として導入の仕方、発展の仕方が分からない ・書き方が分からない ・時間配分が分からない ・縦割り保育のなかでする保育案の書き方が分からない ・季節にあった内容を取り入れる保育案の書き方が分からない ・一日の保育の流れが把握されていない ・ねらいが何かという点が思いつかない ・1、2才児では何もできない、何をしたらよいか分からない ・ピアノの技能不足 ・園にある遊具や紙芝居など把握できていなくて保育案が作成できなかった

実習に関する学生へのアンケート調査

<ul style="list-style-type: none"> ・一日の流れがいつも「プールとお昼寝」に決まっていた ・自閉症児の子どものことを留意して考えるのが大変であった 	
--	--

表19 問14 始めて乳児保育にかかわりあった感想や注意する点など2つまであげて下さい。

1 部	3 部
<ul style="list-style-type: none"> ・とてもかわいかった ・心配りがむずかしい ・個人差があるので食事や排泄などどこまで援助してよいのか迷った ・人見知りが激しく、すぐ泣いてしまう時があった ・愛情をもって母親がわりのつもりで接することが大事である ・言葉が通じなくても話しかけていくと通じあえる ・おむつ替えなど初めてのことばかりでとてもよい経験であった ・食事など対応の仕方が分からない ・子ども一人一人の話をしっかり聞いてあげるのが大事である ・やさしく、根気強く接していくべきだと思う ・安全面に注意 (全ての子どもたちを常に見ていないと何が起こるか分からない) ・すぐに援助せず、どのような行動をとるか見守ることが大切である ・言葉が話せない分、子どもの行動をみて対応する ・言葉がけを十分する ・小さくても考えをもっているので分かってあげられるよう接する ・健康面に注意する 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉がけがむずかしい ・0, 1才児の子どもたちは何を言いたいのか分からない ・とてもかわいかった ・自由保育でとてもものびのびしていた ・幼稚園と比較して子どもたちが素直であった ・子どもの本来の姿が見られた ・日を追うごとに成長発達する姿が感じられた ・心配りが大変である ・泣いてしまった子どもに対しての接し方がむずかしい ・言葉が話せないぶん子どもの行動を見て対応する ・すぐに援助せずどのような行動をとるか見守る ・視診をして健康面に注意する ・安全面に注意する ・相手から反応が返ってこなくてもつねに言葉がけをする ・家庭環境が大きく影響しているので指導者によく話を聞く

表20 問16 実習中、園の指導についてとても参考になった点はどんな点ですか。
2つまであげて下さい。

1 部	3 部
<ul style="list-style-type: none"> ・保育の仕方 ・自由保育で園児一人一人がのびのびと遊びなどに取り組んでいた ・叱り方、注意の仕方 ・援助の仕方 (見守ることの大切さ) ・言葉かけ ・主体性、自主性を大切にしている保育 ・遊びの大切さ、遊びの工夫 ・日誌、指導案の書き方 ・プール遊びの指導 ・お昼寝の指導・ ・家庭的な環境で保育をする ・導入の仕方 ・子ども同志のけんかの対処の仕方 ・子どもたちの意見を受け入れ認めていた ・絵本、紙芝居の読み方 ・廃材を利用して子どもたちが楽しく遊べるおもちゃ作りをしていた ・安全面の配慮がいきわたっている ・保育目標が保育の中によく出ていた ・健康管理に気をつける ・障害者に対しての接し方 ・食事の指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・叱り方の工夫、注意の仕方 ・手遊びや歌 ・クラスの子どもだけでなく、園全体の子どもたちを先生が把握している ・何をすることも物にたとえていた ・子ども同志のけんかは危険がないかぎり見守っていた ・自由保育で園児一人一人ののびのびとしていた ・散歩中の誘導の仕方 ・年齢差なく集団で遊ぶ ・オムツ代えや排泄の仕方 ・言葉かけ ・子どもたちの意見を取り上げ認めていた ・安全旗のもち方 ・子どもたちを視診し、健康管理に気をつける ・年齢に合った遊具が沢山あった ・導入の仕方 ・一人一人の子どもをみて接していた

表21 問17 実習中、園の指導について不満な点はどんな点ですか。2つまであげて下さい。

1 部	3 部
<ul style="list-style-type: none"> ・忙しくて担任の先生と話がなかなかできない ・給食を全部無理に食べさせていた ・子どもたちの食事の量を体にあわせて盛り付けたほうがよい ・自由すぎて自分は何をしたらよいか戸惑うことになった ・自由保育といわれると先生たちはただ見ていたり話したりしているだけであった ・子ども同志が喧嘩して友達を叩いたときすぐ叱る ・突然保育をまかされた 	<ul style="list-style-type: none"> ・糖分、塩分の少ないおやつにしたほうがよい ・指導者の先生が何も言ってくれない ・保育者が特定の子どもだけに関わりをもっていた ・給食に関して嫌いな食べ物を食べさせる方法を工夫したほうがよい ・朝の自由時間に先生が子どもたちと一緒に遊んでいない ・オムツ交換をさせてもらえなかった ・保育者の雑用が多すぎる ・叱り方、褒め方がすこし甘い

実習に関する学生へのアンケート調査

<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の反省がなかった ・運動会の練習に力を入れ過ぎる ・若い先生が少ない ・指導案の話し合いがなかった ・先生たちは掃除ばかりしていて、子どもたちとあまり一緒に遊んでいない ・特定の子どもに関わりをもっていた 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習生ならこれくらい当たり前と言われたこと ・先生になじめない
--	---

表22 問18 保育園実習に関して後輩にアドバイスするとすればどんな点ですか。
3つまであげて下さい。

1 部	3 部
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に子どもたちの中に入り いっしょに楽しむ ・手遊び、歌遊びを豊富にしておくこと ・常に笑顔でいること ・言葉がけを大事にする ・質問はしっかりする ・積極的に学ぼうとする姿勢 ・健康管理 (体力が勝負) ・楽しんで実習する ・挨拶をする ・大きな声で話をする ・ピアノはしっかり練習していく (弾き歌い) ・自分が担当する年齢の発達に関する知識をまえもって学ぶ ・どの子にも愛情をもって接する ・自分で目標をもって取り組む ・一人一人の全ての子とふれあう ・絵本、紙芝居を読む練習をしておく ・子どもたちの目の高さで話を聞いてあげる ・先生の保育方針があるので自分勝手に動かないでまえもって聞く ・失敗を怖がらない ・それぞれの年齢の保育目標を知っていたほうがよい 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に子どもたちのなかに入る ・笑顔で言葉がけする ・分からないことは先生に聞く ・手遊び、歌遊びを豊富にしておく ・指導案を早めに準備しておく ・年齢に応じた発達段階の知識を理解しておく ・子どもたちの名前を早く覚える ・挨拶をする ・テキパキと行動する ・言葉使い、食事の作法など当たり前のことができるようにする ・楽しい実習となるよう担任の先生とうまく付き合う ・遊んでいても回りの子どもたちを見ている ・自分で作った指人形や棒人形を利用する ・大きな声で話をする ・子どもの抱き方、オムツ交換の仕方を知っておいたほうがよい

表23 問19 実習し終えた今、保育者として何が一番大事だと思いましたか。

1 部	3 部
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの立場にたって物事を見たり、捕らえたりする ・子どもたち一人一人のことをよく理解する ・積極的に行動する ・言葉がけ ・笑顔で子どもたちと接する ・愛情をもって接する ・健康管理、体力 ・安全確保 ・平等に子どもたちと接する ・優しさと厳しさ ・信頼関係 ・子どもが好きであること ・気配りのできる保育者であること ・子どもたちと共感しあう 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたち一人一人のことをよく知る ・子どもたちと共感する ・言葉がけ ・子どもの意見を理解し、それに対してきちんと答える ・積極的に行動する ・ユーモアがある ・笑顔で子どもたちと接する ・障害者の子どもも健常児と同じように接する ・“保育をする”のではなく“保育をさせてもらう”という気持ち

実習に関する学生へのアンケート調査

資料1 幼稚園実習を終えて（1回目）

学籍番号 氏名

初めての幼稚園実習を終えてホッとしていることでしょうか。いろいろ体験し得たものや反省することなど多く出て来たことと思います。これからの実習指導に向けて参考になる資料作りをしたいと考えております。意見をお聞かせ下さい。

※ 適当と思われるところに○をつけて下さい。

- 1 何才児を受け持ちましたか。 1週目（1年少 2年中 3年長）
2週目（1年少 2年中 3年長）
- 2 実習を受けた感想はいかがですか。
（1 苦痛であった 2 ふつう 3 充実して楽しかった）
- 3 自分の実習目標は達成できましたか。
（1 できない 2 まあまあできた 3 できた）
- 4 保育現場は自分が予想し考えていたとおりでしたか。
（1 違っていた 2 ほぼ同じ 3 同じ）
- 5 実際保育をし子ども達とかかわりあった感想はいかがですか。
（1 子どもの中に入りきれなかった 2 普通に接した
3 積極的に子どもとかかわりあった）
- 6 実習した幼稚園の保育形態は主にどのようでしたか。
（1 自由保育 2 自由・設定混合保育 3 設定保育）
- 7 実習した幼稚園のクラス編成は主にどのようでしたか。
（1 縦割り保育 2 学年別保育）
- 8 実習日誌・保育案及び提出物は決められた期日に提出できましたか。
（1 できなかった 2 大体できた 3 できた）
- 9 実習中保育案を作成しましたか。
（1 はい 2 いいえ）
- 10 保育案を作成するとき、困った点を3つまであげて下さい。（9ではいと答えた学生のみ）
①
②
③
- 11 実習前に保育教材を用意しましたか。
（1 はい 2 いいえ）
- 12 自分で用意した保育教材は何です。（11ではいと答えた学生のみ）
（1 絵本 2 紙芝居 3 手遊び 4 人形 5 その他）
- 13 実習の中でどんな点が一番困りましたか。
（1 園の中での人間関係 2 遊びの指導 3 発達に関する知識不足 4 その他）
- 14 実習中、園の指導についてとても参考になった点はどんな点ですか。2つあげて下さい。
①
②
- 15 実習中、園の指導について不満な点はどんな点ですか。2つあげて下さい。
①
②
- 16 次の実習までにどんな事を学習・準備しておいたら良いと思われましたか。
- 17 実習し終えた今、保育者として何が一番大事だと思われましたか。
- 18 実習を終えた今、幼稚園の先生になりたいと思いませんか。
実習前（1 思わない 2 迷う 3 思う）
実習後（1 思わない 2 迷う 3 思う）

ご苦労様でした。

仲野悦子・山崎桂・吉用愛子・林秀雄

資料2 幼稚園実習を終えて（2回目）

学籍番号

氏名

2回目の幼稚園実習を終えてホッとしていることでしょう。いろいろ体験し良かった点、悪かった点など反省することが多く出て来たことと思います。次の保育実習に向けて参考になる資料作りをしたいと考えております。意見をお聞かせ下さい。

※ 適当と思われるところに○をつけて下さい。

- 1 何才児を受け持ちましたか。
1週目 (1 年少 2 年中 3 年長)
2週目 (1 年少 2 年中 3 年長)
- 2 1回目と同じ学年を受け持ちましたか。 (1 はい 2 いいえ)
- 3 実習を受けた感想はいかがですか。
(1 苦痛であった 2 ふつう 3 充実して楽しかった)
- 4 自分の実習目標は達成できましたか。
(1 できない 2 まあまあできた 3 できた)
- 5 1回目の実習と比較して、2回目の実習は心にゆとりがありましたか。
(1 大変であった 2 変化なし 3 余裕がでてきた)
- 6 実際保育をし子ども達とかかわりあった感想はいかがですか。
(1 子どもの中に入りきれなかった 2 苦痛であった 3 普通に接した
4 よく遊んだ 5 うれしかった)
- 7 実習した幼稚園の保育形態はどのようでしたか。
(1 自由保育 2 自由・設定混合保育 3 設定保育)
- 8 実習した幼稚園のクラス編成はどのようでしたか。
(1 縦割り保育 2 学年別保育)
- 9 実習日誌・保育案及び提出物は決められた期日に提出できましたか。
(1 できなかった 2 大体できた 3 できた)
- 10 実習中保育案を作成しましたか。 (1 はい 2 いいえ)
- 11 保育案を作成するとき、困った点を3つまであげて下さい。(9ではいと答えた学生のみ)
①
②
③
- 12 実習前に保育教材を用意しましたか。 (1 はい 2 いいえ)
- 13 自分で用意した保育教材は何ですか。
(12ではいと答えた学生のみ)
(1 絵本 2 紙芝居 3 手遊び 4 人形 5 その他)
- 14 実習の中でどんな点が一番困りましたか。
(1 園中での人間関係 2 遊びの指導 3 発達に関する知識不足 4 その他)
- 15 実習中、園の指導についてとても参考になった点はどんな点ですか。2つあげて下さい。
①
②
- 16 実習中、園の指導について不満の点はどんな点ですか。2つあげて下さい。
①
②
- 17 幼稚園実習に関して後輩にアドバイスするとすればどんな点ですか。
①
②
③
- 18 実習し終えた今、保育者として何が一番大事だと思いましたか。
- 19 自分も将来、幼稚園の先生になりたいと思いますか。
実習前 (1 思わない 2 迷う 3 思う)
実習後 (1 思わない 2 迷う 3 思う)

ご苦勞様でした。

実習に関する学生へのアンケート調査

資料3 施設実習を終えて

学籍番号

氏名

10日間の施設実習を終えてホッとしていることでしょうか。この実習を経験したことによって考え方が変化したか、視野が深まったのではないのでしょうか。良かった点、悪かった点など反省させられる事柄が多く出て来たことと思います。実習に関しての意見をお聞かせ下さい。

※ 適当と思われるところに○をつけて下さい。

- 1 実習を受けた施設名を書いて下さい。
()
- 2 自分の実習目標は達成できましたか。
(1 できない 2 まあまあできた 3 できた)
- 3 実習を受けた感想はいかがでしたか。
(1 苦痛であった 2 ふつう 3 充実して楽しかった)
- 4 自分として実習評価をするとすれば努力したと思われませんか。
(1 積極的でなかった 2 ふつう 3 努力した)
- 5 施設現場は自分が予想し考えていたとおりでしたか。
(1 違っていた 2 ほぼ同じ 3 同じ)
- 6 実習中苦労した事・困った事がありましたか。
①
②
③
- 7 実習で得たものは何ですか。
①
②
③
- 8 施設実習にあたりどんな事をもっと理解しておいたら良いと思いましたか。
①
②
③
- 9 実習をおえて施設にお願いしたい事がありますか。
①
②
- 10 実習をおえて本学の教員に伝えたい事・言いたい事がありますか。
①
②
- 11 実習は自分にとってよい経験になりましたか。(1 はい 2 いいえ)
- 12 実習を終えた今、保育者として何が一番大事だと思いましたか。
- 13 自分も将来、施設の先生になりたいと思いませんか。
(1 思わない 2 迷う 3 思う)

ご苦労様でした。

仲野悦子・山崎桂・吉用愛子・林秀雄

資料4 保育園実習を終えて

学籍番号 氏名

保育園実習を終えてホッとしていることでしょう。幼稚園・施設・保育園といろいろな経験をし、良かった点、悪かった点など反省させられる事柄が多く出て来たことと思います。保育園実習も含めて実習に関しての意見をお聞かせ下さい。

※適当と思われるところに○をつけて下さい。

- 1 何才児を受け持ちましたか。
(1 0才児 2 1・2才児 3 3才児 4 4才児 5 5才児)
- 2 実習を受けた感想はいかがですか。
(1 苦痛であった 2 ふつう 3 充実して楽しかった)
- 3 自分の実習目標は達成できましたか。
(1 できない 2 まあまあできた 3 できた)
- 4 幼稚園実習と比較して、保育園実習中は実習にゆとりがありましたか。
(1 大変であった 2 変化なし 3 余裕がでてきた)
- 5 保育現場は自分が予想し考えていたとおりでしたか。
(1 違っていた 2 ほぼ同じ 3 同じ)
- 6 実際保育をし子ども達とかかわりあった感想はいかがですか。
(1 子どもの中に入りきれなかった 2 普通に接した
3 積極的に子どもとかかわりあった)
- 7 実習した保育園の保育形態はどのようでしたか。
(1 自由保育 2 自由・設定混合保育 3 設定保育)
- 8 実習した保育園の保育形態はどのようでしたか。(1 縦割り保育 2 学年別保育)
- 9 実習日誌・保育案および提出物は決められた期日に提出できましたか。
(1 できなかった 2 大体できた 3 できた)
- 10 実習中、保育案を作成しましたか。
(1 はい 2 いいえ)
- 11 保育案を作成するとき、困った点を3つまであげて下さい。(10ではいと答えた学生のみ)
①
②
③
- 12 実習前に保育教材を用意しましたか。(1 はい 2 いいえ)
- 13 自分で用意した保育教材は何ですか。(12ではいと答えた学生のみ)
(1 絵本 2 紙芝居 3 手遊び 4 人形 5 その他)
- 14 初めて乳児保育にかかわりあった感想や注意する点など2つまであげて下さい。
①
②
- 15 実習の中でどんな点が一番困りましたか。
(1 園の中での人間関係 2 遊びの指導 3 発達に関する知識不足
4 その他)
- 16 実習中、園の指導についてとても参考になった点はどんな点ですか。2つまであげて下さい。
①
②
- 17 実習中、園の指導について不満な点はどんな点ですか。2つまであげて下さい。
①
②
- 18 保育園実習に関して後輩にアドバイスするとすればどんな点ですか。3つまであげて下さい。
①
②
③
- 19 実習し終えた今、保育者として何が一番大事だと思いましたか。
- 20 自分も将来、保育園の先生になりたいと思いますか。
実習前 (1 思わない 2 迷う 3 思う)
実習後 (1 思わない 2 迷う 3 思う)

ご苦労様でした。